会　　報
Vol.24　No.4　通巻 138 発行日　2022.012.11

Der Wind
（風）

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局：〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1－1－1
江ノ電第2ビル7F
Tel：0466-26-3028　Fax：0466-27-5091
E-mail:jdgshonan.official@gmail.com　　http : //jdg-shonan.ciao.jp/

駐日ドイツ大使レセプション
並びに　全国日独協会総会への出席

湘南日独協会　　会長　島　新

2022年も12月となり、今年も残りわずかです。コロナ感染は増えたり減ったり、なかなか終息の様子が見えません。そのような中で、当協会の諸活動は、一時制約を受けましたが次第に復活し、感染対策に注意を払いながら、様々な活動、催しを成功裏に実施することが出来ました。これもひとえに、皆様のご協力と、それぞれの催しを推進するのに献身的に尽力された方々のおかげと、感謝する次第です。篤く御礼申し上げます。

大きな行事では、コロナ禍のため、3年前より中止していた、湘南オクトーバーフェストは、今年も開催できませんでしたが、代替として同じ会場の藤沢市民会館にて、人数を制限し、昨年に引き続きミニコンサートを開催出来ました。同じく10月に、JR藤沢駅前にあるサンパール広場で開催された藤沢市の藤沢国際交流フェスティバルと鎌倉国際交流フェスティバルに参加でき、当協会の宣伝にもなったと思われます。

一方、9月には、ドイツ大使公邸での、昨年着任されたDr. フォン・ゲッツェ大使のレセプションが開かれました。同所では、大使にお会いし、話を聞くことが出来ましたが、本年4月に湘南日独協会の例会でご講演をいただいたドイツ大使館主席公使のDr.フィーツェ氏にも再会出来ました。同氏は、来年6月に本国に帰任される予定で、離日前に再度、当協会で話をされたいとのことで、急遽来年4月の当協会例会にて記念講演をして頂くことになりました。同氏は、当協会にとっては2回目の講演となりますが、神奈川県に留学されていたこともあって、当協会に来ることが大変楽しみのようでした。

また、年明けの1月の例会で講演をいただく予定のロエル氏にも、お会いすることが出来、初対面ながら快く確認のご返事を頂けました。同氏は、ノルトライン・ヴェストファーレン州の貿易振興公社の日本法人の代表で、在日も長く、日本通の方です。

この時のレセプションに引き続き、別の会場で、コロナ禍で長らく開催が休止されていた、全国日独協会連合会の総会並びに講演会が久々に催され出席し、連合会加盟の各地の日独協会の方々と懇親を深め、活動の状況を知ることができたことは、有意義であったと考えています。当協会の活動状況も、簡略に発表しましたが、コロナ禍の対策を取りながら、当協会程多くの活動を実施しているところはないように見受けられました。

このレセプションと連合会の会合を通じて、様々な方々にお会いできました。特に、ドイツ大使館の方々、連合会の役員の方々、又、若い人中心に活動されている日独ユースネットワークの方たちとも知り合えたのも有意義でした。こんなこともありました。大使館から連合会の会場までの移動の折に、日独協会連合会副会長で元ドイツ大使を務められた中根猛氏（のタクシーに、一人分空いていたので、初対面でしたが同乗させて頂いたことです。気さくな方で、10分ほどの道中どのような話をしたか、覚えていませんが、その後しばらくして、不慮の事故がもとで亡くなられることになろうとは、全く想像もできませんでした。残念なことです（合掌）。

また、来年は、当協会創立25周年です。来年から再来年にかけて、様々な記念行事を開催してゆく予定です。皆様のお力添えとご協力をこれからもよろしくお願いいたします。

皆様、良いお年をお迎えください。

９月例会　講演会

「ドイツ留学の夢－Darmstadt滞在通算6年半」

講師　中川淑郎氏　横浜市大名誉教授

会員　　大久保　明

写真は実験の指導をされる講師の中川先生

中川先生が湘南日独協会の会員になられたのは、恒例の「湘南オクトーバーフェスト」への参加がきっかけでした。大きな身体で、温厚で少々浮世離れした雰囲気で、例会後の懇親会でも皆さんの話に耳を傾ける紳士です。

この講演の1週間後の10月２日に満90歳を迎える先生の背景、研究生活とドイツとの関係等が理解出来ました。因みに私は横浜市大卒ではありますが、学部の違いや年齢の違いがあり、先生とは同キャンパスでお会いする機会はありませんでしたが、お互いに知る教授は多数います。

先生の講演はご自分の出生から、世の中の動きを横目にお話をされました。誕生は1932年金沢で、ドイツではナチス政権の誕生、日本では満州国建国などその後の世界大戦への動きが見えて来た時期です。金沢から福井へそして東京へ。旧制中学に入学後、1947年に同校は学制改革で高校になりました。その当時、建築関係にも関心がありましたが、化学に強く魅かれました。

NHKに勤務の父親の急死により、NHK放送文化研究所給仕としての職を得て、高校は定時制に転学、1953年東京理科大、1957年東工大大学院（化学専攻）へ。そこで、その後の研究テーマに出会いました。1959年に博士課程に進み、ドイツ留学を目指してドイツ語会話の受講開始、1962年学位取得（理博）。

化学への興味を持った動機は「綺麗な分子構造」や「育ち盛り期の飢え」で、化学の力による食糧増産（草食動物は植物を餌としていることがヒントで、「セルロースからのブドウ糖への変換の可能性研究」）であった。大学院3年生の時に、R. Kuhn（ノーベル化学受賞者）らが提唱した「シアル酸の構造」の証明法に疑問を持ち、ハイデルベルクの彼の研究室に乗り込んで正そうと、Alexander von Humboldt 財団の奨学生に応募したが、不採用の通知。（その直後、彼らの訂正論文が出現）

東京オリンピック開催翌年の1965年、Deutsche Forschungsgemeinschaftの奨学金でダルムシュタット工科大学（THD）に第一次留学：すなわち、9月26日にソビエト船でナホトカへ、列車でハバロフスク、プロペラ機でモスクワ、仏ジェット機でストックホルム、コペンハーゲン経由、フランクフルトに着き、THDでの研究生活が始まった。1967年に初回のTHD研究生活1年半を終えた。帰国後、横浜市大に転じて、1998年定年退職までの間、カナダ、中国、およびTHD客員教授などの期間があり、ドイツ生活は通算6年半に及んだ。

講演の中で、光学活性分子の構造に関する理解を深めるためとの意図で、「実験の時間」が設けられた。方解石と偏光板が用意され、方解石でモノが二重に見えたり、偏光板の重なり具合によって板が透明にあるいは暗黒になるのを体験した。先生の研究による具体的成果の一つとして、エネルギー計算から存在が不可能とされていた「ブドウ糖分子5分子が環状に繋ながった新奇シクロデキストリン」の創生の成功があり、世界的な注目を集められた。

ダルムシュタット生活を大変に楽しまれたご様子である。同市は第2次世界大戦終了前は、ヘッセン州の州都であった古い歴史を持つ街で、私の住んでいたフランクフルトから南方30㎞、ドイツワインの代表的産地のライン地域とモーゼル地域に隣接し、勿論ビールはどこも町にも醸造所があり、ドイツ人の好きな山野を歩くに適した、ベルクシュトラーセも近い町で大変快適な生活を送られたご様子である。様々なビールがあり、その空き瓶を部屋の隅に一列に並べて閉環完成の直前に大家さんに見つかり、「部屋中が臭くなる」と叱られたよし。

若き日にイタリアオペラ団の来日公演に接してオペラに目覚め、フランクフルト、ベルリン、ドレスデン、ミュンヘン、ウイーンなどのオペラハウスへしばしば出かけたり、美術館巡りなど、研究以外のドイツ生活も大いに楽しまれた。

先生の専門の化学に関しては全く門外漢の私には、大変難しい内容も含まれていたが、先生の2度目の滞在時は私の3度目のフランクフルト滞在と重なっているので、どこかでお会いしてみたかったなどと、ふと思ったりします。

懇親会：左側中央が講師、奥が筆者

秋のミニコンサート　寸感

鈴木章子さん

会員　　鈴木章子

10月1日（土）藤沢市民会館
昨年に続き、演奏家の皆さんのご協力を頂き音楽を楽しみました。
演出進行：高橋善彦理事

ビールもワインも、そしてダンスもない、オクトーバーフェストなんて！そんな不満のもっていき場があるわけもなく、ここ３年間はおとなしく十月を過ごしています。

でも、せめて音楽は楽しみたい。そんな願いを叶えてくれたコンサートが開かれました。

最近、私達がコンサートやテレビで出会う音楽は、洗練された音響のホールで、最新のテクニックを駆使し、華やかなパフォーマンスに彩られた演奏家の演奏です。時代と共に音楽も変化するのは当然のこととはいえ、その変化の激しさに、取り残されている感じは否めません。

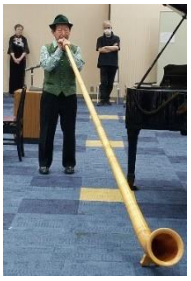
今、年を重ねて思うのです。音楽の喜びとは、もっとささやかな事、身近の友人や家族とのアンサンブルの楽しみではないかと。そんな私の密かな音楽への想いを、見事に体現していた方が、このコンサートの演奏者の方々だったと思います。ピアノもヴァイオリンも、奏者が語っていたとおり曲の物語がしっかり伝わってくるようでした。さらに何よりも、演奏者がご自分の音楽を楽しんでいるのが感じられたのです。また、フランスバロックの音楽を、手作りの楽器で演奏するなんてー。こんな音楽の楽しみ方があるんですね。単に一個の楽器の演奏に習熟するだけではなく、もっと日常の場で、多様な音の組み合わせを楽しむことができることもしりました。

隣国の中国の音楽について関心を持つこともなかったのですが、中国の琴箏の演奏は珍しく、透明感のある明るい音色にちょっと意外な感じをもちました。日本のくぐもった琴の音と比べたからでしょうか。

アルプホルンの懐かしい響きに始まって中国の古箏の奏でる優雅な音色をも楽しんだ豊かな時間を過ごすことが出来ました。

一方私は合唱団アムゼルの一員として、コロナ禍の中でも断続的に練習を重ねてきた、「歌の翼に」を含む4曲を演奏しました。皆様から温かい励ましの拍手を頂き、聴く楽しみに加えて、私自身が音楽をすることの楽しみも改めて感じたコンサートでした。

左：開会の挨拶、松尾鎌倉市長よりの祝電を披露する島会長、右：ご来賓頂きました鈴木藤沢市長



アルプホルンの鬼久保さん　ピアノの川久保純子さん

古楽器デュオの吉田さんご夫妻

ヴァイオリンの松野美智子さんピアノの高橋愉紀さん

中国の２１弦琴の伊藤志津子さん

指揮をする梶井先生とアムゼルの皆さん

会場

会員　高橋　善彦

音楽はいろいろな国で演奏されますので、楽器の名前も各国で様々です。間違えやすい楽器の名前がありますので、今回は**楽器の名前**についての話です。

1. ビオラとトロンボーン

ドイツ語でビオラ(Viola)はBratscheです。イタリア語で「腕に抱える」弦楽器をviola da braccioと呼び、「脚に挟む」弦楽器をviola da gamba と呼んでいました。ドイツにはBratscheとGambeの名で伝わり、弦楽器の歴史の中でBratscheが生き残ります。ちなみに、フランス語でビオラはアルト(Alto)です。

ドイツ語でトロンボーン(Trombone)はPosauneです。Posauneという言葉の由来は明確ではありません。12世紀初期、金管をブイジーヌ(古仏語 buisine)と呼び、この言葉が語源ではないかとされています。

2. 木管楽器　ピッコロとオーボエ

英語	独語	仏語	伊語
piccolo	Kleine Flöte	petite flûte	ottavino
flute	Flöte	flûte traversière	flauto traverso
oboe	Oboe	hautbois	oboe
clarinet	Klarinette	clarinette	clarinetto
bassoon	Fagott	basson	fagotto

ピッコロは各国で様々です。伊語のottavinoはオクターブ高いという意味です。オーボエは仏語だけHautboisとHから始まりますが、発音は”オーボワ”となります。

3. トランペットとクラリネット

トランペットは英語でTrumpet, 独語でTrompete, 伊語でTromba (複:Trombe)、仏語でtrompette です。

楽器の名前に演奏方法が加わりややこしくなります。中世頃から、高音域を演奏することと使う楽器を、ラテン語でClarion, 伊語でClarinoと呼ぶようになります。これはTrumpetの別名となります。例えば、MozartのRequiemやBeethovenの交響曲第9番では、Trumpetパートは Trumpet 等でなくClarinoと書かれています。

Mozartの時代に実用化になった木管のクラリネット(Clarinetto)は、高音域は明るく開放的な音色で「遠くで聴くClarinoの音色に似ている」という理由で、Clarinoの語尾に小さい物を指す“指小辞”の-ettoを付けてClarinettoとなります。

これはよく間違えます。Clarino(トランペット)の譜面が見あたらない時は、まずClarinetto(クラリネット)の譜面袋の中を確かめると、出てくる確率大です。

4.イングリッシュホルン

ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」の第2楽章のSoloでお馴染みの楽器、英語でEnglish hornです。翻訳すると「英国のホルン」ですが、英国には全く無関係な楽器です。この楽器の名前はフランス語の“cor anglais”から来ているのですが、解釈に間違いがあったようです。この楽器の祖先にあたる、古楽器のoboe da caccia (狩りのオーボエ)は楽器が長い為、演奏しやすくするために、楽器が曲がった形をしていました。そこで、角度の付いた(anglé)ホルン(Cor)と呼ばれました。これを英語に直す時に間違って解釈し、そのまま、英国のホルンと呼ばれています。

oboe da caccia

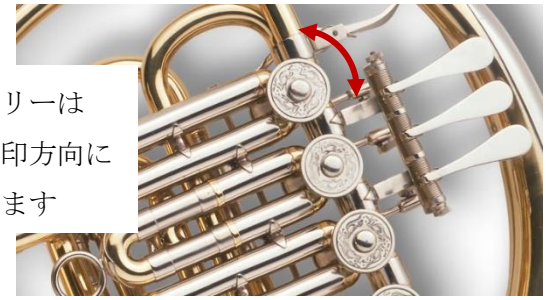
現在のEnglish horn (Cor anglais)はキーを付ける事で曲げる必要がなくなりました

5.フレンチホルン

金管のホルンを英語でfrench hornと呼ぶことがあり、日本語でも、フレンチホルンと呼ぶことがあります。フランスで開発された経緯からこのように呼びます。次の写真のホルンは1840年頃に製作されたピストンを採用した初期のフランス製のホルンです。この方式を考案して実用化したのはフランスです。

ピストンは矢印方向に動きます

この様なホルンならば、フランス式バルブ付きホルンから「フレンチホルン」と呼んでも間違いではありませんが、これは初期の話です。現在のホルンで使われているバルブは、次の写真のようにロータリー方式のバルブです。これはドイツで開発されたドイツ方式です。



ロータリーは
赤い矢印方向に
回転します

一般的にホルンと呼びます。イタリア語ではcorno コルノと呼びます。

ピストンとロータリ方式

ホルンのバルブにフランス式のピストンでなく、ドイツ式のロータリーバルブを使う様になったのには理由があります。ピストン方式のバルブは簡単な仕組みで使い易いのですが、切り替えの為に動く部品(ピストン)が長くなります。これに比べるとロータリー方式のバルブは、指で押して上下に動くキーの動きを90度の回転に置き換えるという、複雑な動きがある為、精巧な作りが求められますが、切り替えの為に動く部品(ロータリー)は小さな部品で済みます。ホルンの様に複雑な切り替えを必要とする楽器や、チューバの様に管が太く重くなる楽器にはロータリー方式を使います。

木管のホルン　先ほどのイングリッシュホルン、クラリネット属のバセットホルン(Corno di bassetto)のように木管楽器のホルンもあります。

Cornoは角笛という意味で、
木管楽器でもベルが付いています。

6. 弦楽器の名前

イタリア語では、ビオラ Violaが弦楽器の中心です。
バイオリンは、小さいビオラでViola +ino = Violino
コントラバスは大きなビオラでViola +one = Violone
となります。

チェロは大きなビオラ(Violone)の小さな(+cello)楽器で、Violone +cello =Violoncello となります。
各弦楽器の2文字の省略形は、ViolinがVn., ViolaがVa., VioloncelloがVc., ContrabassがCb.となります。

7. 金管楽器の名前

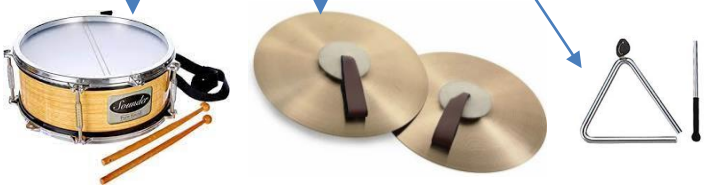
英語	独語	仏語	伊語
horn	Horn	Cor d'harmonie	corno
trumpet	Trompete	trompette	tromba
cornet	Kornett	Cornet à pistons	cornetta
trombone	Posaune	trombone	trombone
tuba	Tuba	tuba	tuba

楽器の名前に出てくるイタリア語の語尾変化

指小辞は +ino, +ettoなど、指大辞 +one があります。
小さなホルン corno +etta = cornetta コルネット
大きなトランペット tromba + one = trombone トロンボーンとなります。

8. 打楽器

英語	独語	仏語	伊語
timpani	Pauken	timbales	timpani
bass drum	Große Trommel	grosse caisse	grancassa
snare drum	Kleine Trommel	caisse claire	rullante
cymbal	Becken	cymbale	piatti
triangle	Triangel	Triangle	triangolo



ここに上げた打楽器は多くの管弦楽曲に使われている代表的な打楽器群、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングルです。この他にも多くあります。有名な所では、ルロイ・アンダーソンのタイプライター、サンドペーパー、ソリ鈴、鞭、拳銃、大砲、雷、風の音、マーラーは交響曲第6番の中で、カウベル、教会の鐘、床を叩くハンマーを打楽器に採用しています。更に鉄琴、木琴、ピアノ、チェンバロ、オルガンなどの鍵盤楽器も含めます。

SWZ-Oktoberfest　２０２２

２０２２．１０。２０　　La Shambre

SWZ-Oktoberfest に参加して

会員　　中野宏徳

先日、藤沢の高級フランス料理店を貸し切りで行われた掲題の会に参加することが出来ました。

ドイツ語で歌う会があることは承知していましたが、そこに参加したのは初めてです。ドイツに滞在中も日本人の集まるカラオケバーで日本の歌謡曲を歌うことはありましたが、なぜかドイツ語の歌を詠ったことはあまり記憶にありません。実際にSWZの会員の方々はドイツ滞在中にドイツ語の歌を歌っておられたとのことですから。

それはともかく、今回はドイツ語・フランス語の歌を堪能しました。まず、用意されたプリントを見て、こんなに沢山あるのかとの驚き、それらの歌をよどみなく歌われる皆さんを見てまた驚きました。また料理もお酒も申し分なく、またこのような機会があれば今後も参加したいと思います。

会場中央で、左より2番目がRadkeさん

１０４歳の藤田さんと中村さん

編集長

SWZの熱心なメンバーの熱唱左端はリーダーの木原さん

鎌倉在住　Rebekka Ladke

Das SWZ-Oktoberfest vom 20.10. Zum ersten Mal seit Beginn der Corona-Krise fand in diesem Jahr wieder das traditionelle Oktoberfest der JDG statt. Klein, aber fein in dem französischen Lokal „La Chambre“, wo zu Beginn passend zur feinen Küche auch mit drei Chansons aufgewartet wurde. Alles war perfekt vorbereitet und wir hatten eine ausgelassene, fröhliche Zeit mit Gesang, Speis und Trank (über zwei Stunden nomihodai). Hauptsächlich gab es natürlich die schönen deutschen Trinklieder, die, ob man will oder nicht, gute Laune machen und jeden mitziehen. Neben dem Gesang wurde sogar getanzt und man konnte getrost die letzten Jahre vergessen. Meine Stimme war zwar reichlich eingerostet, aber solange ich nicht allein singe, kein Problem und mit der Zeit taut man natürlich auf. Wir haben sage und schreibe 21 Lieder gesungen und weil es so schön war, einige gleich mehrmals. Allein die Herz-Schmerz-Polka mindestens dreimal und das nicht nur weil sie so kurz ist. Ich glaube, alle Teilnehmer haben es genossen, einfach mal wieder unbeschwert beisammen zu sein. Obendrein wurde auch ein beeindruckender 104. Geburtstag (nach)gefeiert, was der ganzen Veranstaltung zusätzlich einen feierlichen Rahmen verlieh. Durch das Programm begleitete uns ein liebevoll gestaltetes Heft mit allen Texten zum Mitsingen. Die gute Laune hielt noch eine ganze Weile an. Es war ein wunderbarer Nachmittag

（日本語訳大意）コロナ危機が始まって以来初めて、湘南日独協会の伝統的なオクトーバーフェストではありませんが、SWZ「ドイツ語で歌を歌って楽しむ会」のオクトーバーフェストが今年開催されました。フレンチレストラン「ラ・シャンブル」で、高級料理に合わせて最初にシャンソンで始まり、歌ったり、食べたり、飲んだり（2時間以上の飲み放題）で、陽気で楽しい時間を過ごしました。もちろん、主にドイツのトリンク・リーダー（飲酒の歌）を歌い、皆気分が良くなり、歌に加えてダンスもあり、ここ数年の憂さを忘れることができました。私の声はかなり錆びていましたが、ソロで歌わない限りは問題なく、時間が経つにつれて自然に声が出るようになり、なんと21曲も歌いました。短いからという理由だけでなく、少なくとも 3 回も歌った曲もあります。それに加えて、印象的に残ったのは 104 歳の誕生日を数日前に迎えた藤田さんのお祝もありました。一緒に歌うため歌詞の小冊子が配布され良く準備されていました。楽しい、素晴らしい午後の一時でした。

大盛況だった第19回「ふじさわ国際交流フェスティバル」

担当理事　伊藤志津子

10月30日に３年ぶりの開催。新しく整備されたサンパール広場（藤沢駅北口）が会場でした。好天に恵まれ野外での催しを楽しみました。会場には若者、親子連れ、年配の方々、高校生のグループなどが楽しそうに集っていました。いまだにコロナ感染対策規制の指示のある中でも解放感の感じられるフェスティバルでした。

- 湘南日独協会のテントではドイツの瓶ビールRadebergerとドイツのパンBrezelを販売、閉店３時までにどちらも完売することができました。パンもビールも美味しいと好評で、何度も買い求めてくれる人もいて嬉しいことでした。

また、広場に設けられた舞台では、鬼久保さんのダンケシェーンがアルプホルンの演奏を披露し好評でした。今年は役員だけではなく、会員の八尾さん・三浦さん・原口さんがスタッフとして参加して下さいました。それも嬉しいことでした。

今後も湘南日独協会のさまざまの企画に会員の皆様のご参加を頂けるように、DerWindやホームページの中でのお知らせを充実いたします。よろしくお願い致します。

来年はマスク不要の真に解放的なフェスティバルになることを期待しつつ、ご報告と致します。

湘南日独協会のブースの様子

かまくら国際交流フェスティバル

担当理事　鬼久保洋二

「ダンケシェーン」メンバー演奏者１０名、サポート９名。協会からは島会長、伊藤理事の応援で２回の演奏がスムースにできました。

アルプホルン、アコーディオン、カウベルとたくさんの楽器出し入れに協力ありがとうございました、鎌倉大仏様の前、たくさんの観光客の前で演奏できましたことに感謝申し上げます。

ダンケシェーン・メンバーの声

○カウベル演奏　藤原

２７回目を迎え今年はコロナ対策も十分に配慮しながらもパフォーマンスも復活、秋晴れの中紅葉も始まり参加団体展示１４グループ、舞台４グループと日常に戻りつつ開催されました。

鎌倉大仏高徳院にはたくさんの外国人ドイツからの方も含めにぎわっていました。見事な秋晴れの中、大勢の参拝客に囲まれての演奏参加の機会にあずかりました。準備中にはドイツ出身の青年から声ををかけられ国際交流フェスティバルを実感しました、お話は島会長伊藤理事に引継ぎスタンバイ、フリーマーケットも楽しみの一つ。湘南ロシア倶楽部には“NO WAR”のメッセージとともに出品していたウクライナ郷土料理「ボルシチの素」をお土産に買い料理に挑戦するつもりです。

大仏の前で島、鬼久保、伊藤の協会役員と旅行中のドイツ青年

○小谷野

パフォーマンス参加者としてバザー　フリーマーケット、フードロス　などテーマが多く勉強　になりました。

○吉村

ロシアとウクライナが戦争中とは思えない程穏やかな日本で、安心しました外国人観光客も多くコロナもある程度収ったように感じました。一刻も早く戦争がおわることを願っています！。

特設ステージでのダンケシェーン演奏

ダンケシェーンメンバーによるカウベル演奏

ブレーマーハーフェン　　志賀トニオ

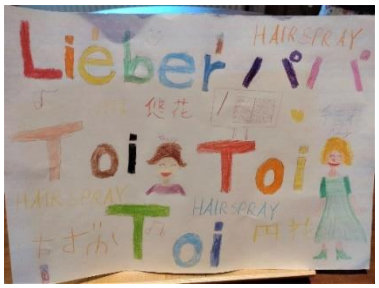
ミュージカル「ヘアスプレー」の舞台

今回の劇場便りは、今回正指揮者を任されたミュージカル"ヘアスプレー"の続編*です。シーズン開始と共に最初の演目、ヴェルディ作曲"マクベス"の立ち稽古でピアノを弾く傍ら、ヘアスプレーの歌手との音楽稽古が本格的に始まりました。具体的には私がピアノを弾き、歌手と一対一で音楽的な方向性を摺り合わせていく時間です。業界ではSoloProbe　と呼ばれ、プロダクションの最終的な出来上がりに直結する大切な稽古です。指揮者によってはSoloProbeを自分でやらずにコレペティトーアに任せる事もありますが、歌手としては、最初から指揮者と出来る方が方向性に一貫性を保てる事から好まれます。劇場の専属歌手との稽古が順調に進む傍らで、ゲストの歌手達と電話で詳細の確認をしていきます。ゲストの歌手は基本的に自分で音取りから音楽的な仕上げまで準備してから、立ち稽古に参加する事になっており、多くの歌手達はプライベートで専属のコレペティトーアを雇って稽古しています。オペラ等の通常の作品ではゲストの歌手と事前に電話で話す等の打ち合わせはないのですが、今回の作品は誰が何処を歌うのか明確な指示が無い所が多く、事前に演出家と演出のコンセプトを摺り合わせた後に、歌手達に歌う個所を伝達する必要があったのです。全体の稽古開始は９月２６日（月）で、皆その日に向けて集中的に稽古していきます。その日は立ち稽古開始の日でもあるので、歌手たちは暗譜した状態で参加しなければなりません。９月１７日にマクベスのプレミエが無事終了し、１週間集中的に音楽稽古を行い準部万端。その稽古場にいた私の所に劇場の事務方トップの方が神妙な面持ちで現れました。なんと演出家が身体的な理由によりキャンセルしたとの事！前代未聞の事態で、急遽代わりの演出家を探すことになり、仕事内容を分担する為に振付師も採用する事に。その後運よく、代わりの演出家が２７日午後から、振付師が１０月４日から参加できる事に。そして最初の２日間は参加者全員で音楽稽古をする事になり、指揮者の私としては余裕をもって時間を使える事になり怪我の功名となりました。立ち稽古開始直前に行われるこの音楽稽古は指揮者にとって一番大切な時間の一つです。出演者に音楽の方向性を示すと共に、彼等の習熟度を測り、今後の稽古のプランを立てる必要があります。特に今回はゲストの歌手が８人います。作品の性質上若い歌手が多数参加するので、プロとしての経験が少ないかもしれません。２人は昨シーズンからニュルンベルクの劇場で同演目で出演しており、今シーズンもブレマーハーフェンと並行して、そちらで出演する為、テンポ等の音楽作りをニュルンベルクと同じにするように要求してくるかもしれません。*（前回の劇場便り　３０の続き）

９月２６日、いよいよ全員が集合して稽古が始まりました。演出家が変更になった事を知り、皆面食らっていましたが、音楽稽古は順調に進みました。ゲストの歌手の中には案の定やや準備不足の若者達がいましたが、それも私の計算の範囲内に留まり、上記のニュルンベルクの歌手達とはテンポのせめぎ合いはありましたが、こちらも比較的上手く方向性の一致を見ました。２日目午後の音楽稽古には代役の演出家も見学に訪れ、２８日にようやく立ち稽古を開始しました。３日前に楽譜を手にしたばかりでどのように稽古を進められるのか一抹の不安はありましたが、代役の演出家は大変経験豊富なプロフェッショナルな方で比較的順調に稽古は進んでいきました。しかし、今回のプロダクションの一番の問題の一つはバレエ団との稽古時間が足りない事でした。この作品ではバレエ団に重要な役割があり、彼等の参加するナンバーが１０曲程ありました。しかし、そのバレエ団はヘアスプレーと並行して１０月中旬に眠りの森の美女のプレミエがあり、ヘアスプレーの為の稽古時間が大変限られていたのです。一週間後に来た振付師さんにとっての難題でしたが、運よくその方も同じく経験豊富なプロフェッシ

ョナルで、ものすごいスピードで振り付けの稽古をしていきました。その振付師に私は振り付けの稽古は必ず最初は私が自らピアノを弾くとお願いしました。彼女は当初、CDの録音を使って稽古をするつもりでいたので、それはやめて欲しいと訴えました。そうしたがる振付師は多いし、指揮者としても、仕事量が減って楽になる面はありますが、そうしてしまうと、私がやりたいテンポと違うテンポで振り付けされてしまう事になってしまいます。振り付けというのは一度テンポを決めて振り付けられると、常にほぼ同じテンポで指揮をしないと踊れなくなってしまうのです。ですから、この最初の作業を指揮者がさぼって、振り付けが終わった段階で登場すると、もはや指揮者は振り付けにテンポを合わせざるを得なくなってしまうのです。

こうして毎日時間ぎりぎりの中なんとか最後のゲネプロを良い稽古で終える事ができ、いよいよ１１月５日にプレミエを迎えました。当日はなんと満員御礼の売り切れ。一曲目が終わった時点で万雷の拍手でびっくりしましたが、曲の終わりと共にスタンディングオヴェイションとアンコールが連呼され、大成功のプロダクションとなりました。



パパ（トニオさん）の指揮者としての活躍を励まし成功を祈る、４人の娘さんのの応援プラカード。Toi Toi Toi　はドイツ人の　「ガンバッテ！」です。

☆　　☆　　☆　　☆　　☆

編集後記

２０２２年が終わろうとしています。皆さんにとってはどのような１年でしたでしょうか？

コロナ禍で世の中、閉塞感に覆われましたが湘南日独協会は感染防止に努めながら、対面での各種催し物を展開することが出来ました。これは、会員の皆様のご協力とご理解があればこそと感謝しております。ドイツ語講座は講師の先生方、受講生のご希望によりオンラインで実施いたしました。２００３年は１９９８年創立の湘南日独協会の２５周年記念の年になります。記念事業は１年後の２０２４年を目標に計画を進めています。来年もよろしくお願いいたします。（大久保）

BDF - Fonds für bedürftige Deutsche
BDF – German Charity Fund
ドイツ人支援基金

会員のダウシュ三浦ハンナさんより、協力依頼のお話ががありました。
詳しくは「ドイツ人支援基金」で検索してください。

BDF - ミッションとタスク

BDFは困窮状態にある在日ドイツ人とその家族を支援します。BDFのイニシアチブの例：

・ドイツとのコンタクトがなく、また日本でいかなる支援も受けていない高齢者の支援。
・経済的困窮者のための老人ホーム、医療及び子供の教育のための費用助成。
・最小限の寡婦年金しか受給していない遺族のための助成金。
・日本に残るという選択肢がなくなった場合のドイツへの帰国支援。
・日本の刑務所に居るドイツ人受刑者の支援。（例えば防寒具、読み物やメガネなどの差し入れ等

☆

支援基金の口座

BDF　(ローマ字で記載して下さい)
普通預金 2819709
みずほ銀行：丸之内支店(005)

来春よりドイツ語講座が変わります

２００３年４月からの、ドイツ語講座には、既存の「初級」「中級」の他「入門」「上級会話」が開設されるます。
「入門」は、ドイツ語を初めて学ぶクラスです。日本人講師は主に文法、ドイツ人講師はドイツ語の簡単な挨拶など、2人の講師が隔週で担当します。
「上級会話」は様々な話題をドイツ語で話す講座です。2人のドイツ人講師が担当します。
ドイツ語を学んで素晴らしいドイツ文化の世界へ！
詳しくは湘南日独協会ホームページをご覧ください。

湘南日独協会催事カレンダー（2022年12月～2023年04月） 12月11日現在の情報です

12月	読書会	20日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	13日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	休会
	講演会	休会
1月	**見て聴いて楽しむ音楽史（第17回）**	5日（木） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題：新年の音楽 講師：高橋善彦氏 （会員 湘南日独協会理事） 取り上げる曲：Bachのクリスマス・オラトリオから、新年の部 ： 第4部と第6部 Vivaldi ： 四季より〝冬〟、その他、春の音楽
	読書会	17日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	10日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	19日（木） 16:00-18:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	22日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： **エネルギー・気候変動危機対応の日独の比較、並びにSDGs持続可能な社会構築への産業界の動き** 講師： **ゲオルグ・K・ロエル氏 （ドイツNRW Japan社長）** 概要： **ドイツのノルトラインヴェストファーレン州貿易振興公社の日本法人代表である同氏より、現在の世界的な問題の対応について、日独の比較を講演頂く。講演は日本語で行われます。** 懇親会：有り
2月	**見て聴いて楽しむ音楽史（第18回）**	2日（木） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題：バロック音楽(その3) フランスのバロック音楽 講師：高橋善彦氏 （会員 湘南日独協会理事） 取り上げる曲：Jean-Baptiste Lully, Marc-Antoine Charpentier, François Couperin Jean-Philippe Rameauの声楽曲と器楽曲
	読書会	7日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円 21日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	14日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	16日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	26日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： **日本におけるバレエ** 講師： **乃羽ひとみ氏 （乃羽バレエ団 芸術監督）（湘南日独協会会員）** 概要： **神奈川県内にバレエスクールを展開され、国内外でバレエ界で活躍されている同氏より、日本のバレエについて、講演を頂く。** 懇親会：有り 。
3月	**見て聴いて楽しむ音楽史（第19回）**	2日（木） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題：国民楽派の音楽(その1) チェコと北欧の国民楽派 講師：高橋善彦氏 （会員 湘南日独協会理事） 取り上げる曲：Smetana ： Vltava / Moldau（我が祖国より） Dvořák 第9番交響曲 〝新世界より〟 全楽章の予定 （変更の可能性あり）
	読書会	7日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	14日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	16日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	26日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： **ドナウの源流を訪ねて** 講師： **西澤英男氏 （会員 湘南日独協会 監事）** 概要： **ドナウの源流には、ドナウ・エッシンゲンが有名だが、あまり知られていない地理上の源流について、講演を頂く** 懇親会：有り
4月の行事は項目のみ記載、詳細は３月に発行予定の次号に掲載予定：		
4月	**見て聴いて楽しむ音楽史（第20回）**	6日（木） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円
	読書会	4日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円 18日（火） 15:15-17:15 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	11日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	20日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	23日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： **「ドイツと日本」ドイツ本国へ帰任される直前の記念講演** 講師： **Dr. フィーツェ氏 （ドイツ大使館主席公使）（2022年4月の講演以来）** 懇親会：有り

参加される皆様へ 参加人数を制限する場合があります 早めにお申込ください

来場の際はマスク着用をお願いします

懇親会は、講師を含め6名、最大8名に人数を制限させて頂きます

各催しは変更される場合があります 最新の予定を当協会のホームページでご確認ください

URL ： http://jdg-shonan.ciao.jp/#event右記のQRコードからもアクセス出来ます